

# 4 経済の成長と幕政の改革

## 1 江戸時代の農具の進歩 (『老農夜話』 東京大学史料編纂所蔵)



## 2 備中ぐわ (左) と、千歯こき (右)



それぞれどのような作業をしているのかな。



114 ~ 115-1

● 第4章 近世の日本と世界

96

- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

## 12 将軍のおひざもと、天下の台所

▶ 経済の発達と都市の繁栄



江戸時代には、産業や流通がどのように発達し、社会にどのような影響を与えたのでしょうか。

### 新田開発と農業

戦乱が治まると、年貢の増収を図る

幕府や藩、生活の向上を願う百姓が、新田開発を盛んに進めました。開発を請け負う町人も現れ、耕地面積は急速に広がりましたが<sup>3</sup>、開発のしすぎで洪水が起こることもありました。

近畿地方の進んだ農業技術が各地に広まり、農具では、田畑を深く耕せる鉄製の備中ぐわ<sup>2</sup>や、千歯こき<sup>2</sup>、唐箕が使われるようになって<sup>1</sup>、作業の能率や生産力が上がりました<sup>3</sup>。肥料も、糞尿<sup>p.127→</sup>や草木灰<sup>p.62←</sup>のほかに、干鰯や油粕<sup>1</sup>などを購入して用いるようになりました。また、農法を紹介する書物も出版されました。

- B4の用紙で印刷してください。
- 点線で切ると実際の大きさになります。

① <sup>ほしか</sup>干鰯は、いわしを日干しにしたもので、<sup>あぶらかす</sup>油粕は、<sup>なたね</sup>菜種などから油をしぼったかすのことです。

**産業と流通の発達** 一方、<sup>だんぼう</sup>建築の資材や暖房用の燃料の需要が増えたことから、<sup>じゅうよう</sup>林業が盛んになりました。<sup>ばっさい</sup>木を伐採し、加工する道具や技術が改良され、材木や薪・炭を扱<sup>まき</sup>う商人も増えました。水産業では、<sup>ぎょうもう</sup>漁網の改良で<sup>ぎょかくりょう</sup>漁獲量が増え、<sup>あみもと</sup>網元による<sup>だいきぼ</sup>大規模な経営も行われました。魚は肥料や油の原料としても利用され、<sup>くじゅうくりはま</sup>九十九里浜（千葉県）のいわし漁、<sup>ちば</sup>土佐（高知県）や<sup>きい</sup>紀伊（和歌山県）のかつお・くじら漁、<sup>えぞち</sup>蝦夷地の<sup>さけ</sup>鮭・<sup>にしん</sup>にしん漁<sup>4</sup>などが盛んになりました。しょう油や<sup>つけもの</sup>漬物の消費が増えるにつれて、<sup>えんでん</sup>塩田による塩の生産も発達しました。また、各地の<sup>くわんざん</sup>鉱山<sup>2</sup>の開発も進み、幕府は、<sup>えど</sup>江戸に設けた<sup>きんざ</sup>金座・<sup>ぎんざ</sup>銀座などで、<sup>きん</sup>金貨・<sup>ぎん</sup>銀貨<sup>←p.87</sup>・<sup>せん</sup>銭（銅）貨をつくって全国に流通させました<sup>7</sup>。

年貢米は、幕府や藩の財政を支える重要な商品として、<sup>おおさか</sup>大阪や江戸に送られました。綿・<sup>なたね</sup>菜種・<sup>あい</sup>藍な

- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

どの栽培さいばいが各地に広まり、養蚕ようさん・織物業が盛んになると、輸送のための街道かいどうがにぎわいました p.116 →  
水上の輸送路として、江戸・大阪間のほか、日本海側から江戸・大阪へ運ぶ東まわり航路や西まわり航路も開かれ巻末① →、米などの重い荷や各地の特産物が廻船かいせんで運ばれました<sup>5</sup>。

② 佐渡金山さどきんざん（新潟県）、石見銀山いわみぎんざん（島根県）、生野銀山いくのひょうご（兵庫県）、別子銅山べっしどうざん（愛媛県）、足尾銅山あしおとちぎ（栃木県）などがあります。

**にぎわう都市** 商業や交通が発達すると、城下町・港町・宿場町しゆくばまち・門前町もんぜんまちなどがにぎわい、なかでも江戸・大阪・京都きょうとは三都さんととよばれました。江戸は、政治の中心地として「将軍のおひざもと」とよばれ、18世紀の初めには人口100万人をこえました p.126 →。大阪は、商業の中心地として「天下の台所」とよばれ、各藩の蔵屋敷くらやしきに運び込まれた年貢米 p.122 →や特産物の取り引きで発展はってんしました<sup>5</sup>。京都は、伝統ある文化の中心地で、西陣織にしじんおりなどの高度な手工しゅこう

- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

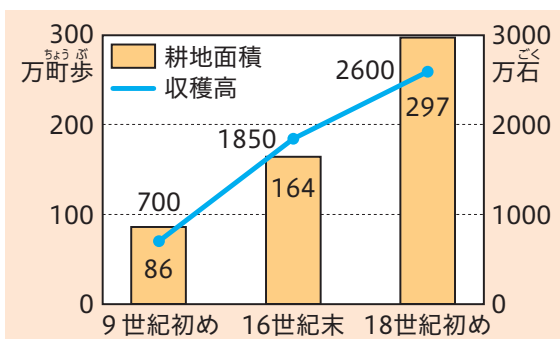


ぎょう  
業が発達しました。

都市では、問屋・仲買などの商人が力を強めました。

同業者ごとに株仲間をつくり、幕府に営業税を納めるかわりに、営業の独占を許され、大きな利益を上げました。金・銀・銭の貨幣を交換する両替商も増え、江戸の三井<sup>6</sup>や大阪の鴻池のように、財政の苦しい藩に金を貸し付ける有力な商人も現れました。

3 全国の耕地面積と収穫高の移り変わり



4 蝦夷地のにしん漁 (『松前檜山屏風』  
函館市中央図書館蔵)



- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

5 にぎわう大阪の港 (『菱垣新綿番 船川口出帆之図』 大阪城天守閣蔵)



6 三井家が江戸に開いた越後屋呉服店 どのような売り方をしているでしょうか。



7 江戸時代に使われた主な貨幣



ステップ1 江戸が「将軍のおひざもと」、大阪が「天下の台所」とよばれたわけを確かめよう。

ステップ2 商人が、力をつけていったのはなぜか説明しよう。

- B4の用紙で印刷してください。
- 点線で切ると実際の大きさになります。